

価格上昇が齎す本当の効果とは

いよいよサバイバルゲームが一層拍車をかけています。現在の日本国内の広葉樹のトレンドはナラ材です。大手建材メーカーの木質系建材の50%はナラ（オークを含む）と聞いています。大手家具メーカーも同じ様にナラ材にシフトしています。

又世界中の洋酒の需要の高まりでウイスキー用の樽材の注文が多数入っている情報を聞いています。経済で言う需給バランスの供給サイドに全く余力がない証拠がナラ材の大幅な値上がりに繋がっていると思います。

そこで考えないといけないのが樹種変更です。過去の樹種変更時のことを考えます。

- 1, 日本人の開拓してきたタイ・マレーシア・インドネシア・ベトナム産の代替材の供給余力が有るのか、無いのか。 答え→ないと思います。
- 2, 海外の材に依存するのであれば、海外の木材関係会社の買収をすれば良いと考えます。 過去の歴史から見ると→失敗に終わりました。
- 3, ヒノキ・スギに大幅にシフトすれば良いのではと言う考え方。

構造材は可能です。【大林組のサイプレス・スナダヤの買収が象徴です。】又内部造作材の一部も集成等の手段を取ってスギ・ヒノキに大幅に変わるでしょう。しかし、例えばトラックに使われているボディ材には強度不足の為に輸入の広葉樹以外の選択肢はない。又世界一の広葉樹を供給するアメリカ側は日本人が買わざるを得ないことが解かっている事実等を総合判断すると、ある程度国内産木材にシフトすると思います。

- 4, 世界中の森林に投資して日本の利権を確保したら良いのではと言う発想。

過去に取り組んだ。→失敗でした。

以上の様な状況で有ることは大手建材メーカーに納材する大手商社の木材部の人間は知っていると思います。又ウクライナ危機が終われば莫大な復興需要が喚起され、木材価格が再上昇することも解っています。従って現実には下記の様になっています。

木質系建材『フローア用単板』を作っていた中堅建材製造下請けメーカーが3月末で工場をこっそり閉めます。このメーカーは中国材の先駆者的存在でした。『フローア用単板を現在も作り続けているのは北海道赤平に有るメーカーと数社と聞いています。』

最終製品を販売する大手建材メーカーは下記の様に舵を切っています。

* 木質系建材から非木質系建材（所謂シート材）に変更せざるを得ないのです。

* 非木質系建材を支えている大手印刷メーカーは、過去最大の利益を出しています。

建材も必要ですが無垢材も必要です。それを後世に残す為には下記の方法しかないと思っています。

*2社が1社に統合されることです。(所謂 M&A です) 規模の拡大以外に素材マーケットに対応する方法はないと思っています。服部商店もその荒波に飲まれる可能性が大きいと思っています。

どうする日本・何故リスク回避を行わない

2011年3月11日PM2時46分に東日本大震災が日本国を襲いました。その影響は今の日本国の市民生活にも影響を与えています。弊社の御客様で東北産の広葉樹を使って頂いている方からのお問い合わせ『海外の御客様から産地の問い合わせです。使用木材に福島県産及び放射能の影響が有る産地の材は使わないで欲しい』がありました。その問いに関して以下の様にお答えしました。

- 1, 福島県産の場合100%放射線量の計測を行っています。
- 2, 弊社が扱っている東北産材には福島県産材は含まれていません。

御客様のお返事は福島県産でも100%安全な材しか使わないし、福島復興の為に十二分に説明は行っていますが、海外の場合曖昧なことはダメだと言うお答えでした。

少し政治的な話になります。関西圏は他の地域に比べると電気代の上昇は少ないです。それは原子力発電所の割合が多いからですと、マスコミ(新聞・テレビ・雑誌等)報道で聞いていますが、何ら解決していない課題があります。

- 1, 使用済み核燃料の燃料プールに保管されている割合が、関西電力の原子力発電所の場合凄く多い事実。
- 2, リスク『テロ行為によって原子力発電所の設備に被害が出たとき。台風・地震等による想定外の被害が出たとき』に対する最終的な責任者が決まっていない事実。
- 3, 青森県に建設されている六ヶ所村の核燃料リサイクル施設の工事は核燃料サイクル事業が始まって20年以上時間が経過しても完成していない事実を考えると1, で述べた使用済み各燃料棒の違う再処理を施さないといけないのに何ら決まっていない。
- 4, 再処理をしてもなお残る放射性を浴びた様々な核廃棄物の最終処理方法の処分方法と処分地が決まっていない事実。福島原発の事故から12年の時間が経過して何も決まっていない事を海外の日本を訪れる方はわかっています。広島・長崎の原爆被害・東京電力福島第一発電所事故等様々な原子力による被害を被っているにも関わらず何故日本人は行動しないのか不思議に思っています。

それでも日本に来たいと言う願望のある方々がいる事実も含めて考えると日本人が解決しなければならない事を着実に解決さえすれば、今以上に日本を訪れる所謂インバウンドの方々は2019年のパンデミック前以上に増えて、日本経済を支え日本復活の道標になると考えています。

- ① 何か起こる前に事前の事を考える。(遷都の実現) ② 行政機関の移転。
- ② 東京一極集中を改める大胆な政策 ④ 税制・社会保障全体の改革

以上の4つは東京もしくは大阪に大震災が起こったら必ず実施される政策です。

それを事前に実行に移した政策に舵を切れば、今以上にお金を持った外国人が日本を訪れ、本当に日本が世界中から尊敬され、結果的に戦争に巻き込まれない国作りが出来ると考えるのは極端でしょうか。こういう考え方も外交戦略だと思います。

盛岡と旭川の3月

2023年3月16日に開催された岩手県産広葉樹市場の広葉樹原木の価格推移は2月より多少価格が下がっていると思います。しかし北海道の最も大きな広葉樹製材工場が本格的に盛岡の市にも参入してきました。この事を如何に考えましょう。小生は北海道だけではお客様の注文に応えることが不可能になってきたと考えています。



ところで出品数量はおよそ2,000 m³です。昨年同様の数量だと思います。材質は年々著しく低下していますが、価格は全体として若干弱含みだと思います。東北材は北海道材より品質は少し低いですから、総じて中間材から少しずつ下がるのではと思わせる内容でした。買い付けた樹種は、ナラ・クルミ・サクラ・クリ・ミズメ・ホオの6樹種12 m³です。

同月の3月24日旭川林産協同組合主催の第464回北海道産広葉樹銘木市には9,855本2,671 m³の原木が出品されました。

出品内容は2月と比較してかなり落ちていました。檜材価格上昇を牽引してきた樽製造業者の参加は有りませんでした。しかし大手家具メーカーと大手建材メーカーの仕入れは継続していると聞いています。



	全樹種の平均単価	檜材の平均単価
2022年11月開催	56,041/m ³	82,198/m ³
2022年12月開催	76,874/m ³	106,735/m ³
2023年1月開催	78,497/m ³	117,333/m ³
2023年2月開催	64,828/m ³	100,501/m ³
2023年3月開催	61,604/m ³	96,000/m ³

今期の広葉樹市はまだまだ継続しますが、事実上3月で終了します。その結果から見ると、トレンドの大きな変化があったのが2022年~2023年だったと思います。勿論ブラックウォールナットも根強い人気がある様です。2024年以降は暴騰している檜材から他の樹種（ブラックチェリー）等に変化してくれたらと小生は思います。

WBC 優勝記念キャンペーン

2023年4月1日～4月30日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

